

私と彼のもしもの物語

夜勤のバイト戦士

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

もし出会つたのがもう1人の彼女だったら・・・

私と彼のもしもの物語

目

次

私と彼のもしもの物語

何でもない休日に私ことアヤ・シェスカは後輩のルナマリア・ホークと街に買い物に来ていたんだけど、さすがは休日の街中と言つたところで気づいたらルナマリアとはぐれてしまつた。先輩の使命感からルナマリアを探している最中にナンパに遭遇、そこで私は出会つた・・・この先の未来に何度も死闘を繰りひろげることとなる彼に

「だから！彼と待ち合わせてるから結構です！」

「いいじやんかよ！」

本当は後輩なんだけどそれを言つたら言つたらでややこしくなるのでこうゆつた時のテンプレ台詞を言うんだけど、なかなか折れてくれないどうしようかな。こうなつたら背に腹はかえられないか・・・

「遅いわよ・・・つ／＼

見知らぬ人にいきなり抱きつくのは流石に恥ずかしく赤面してしまう。果たして吉と出るか凶と出るか・・・

「・・・・はあ？」

・・・・・あ、これ凶だ

でも後から思い出せばこれは良い思いでになるのかな・・・だつてこの偶然の出会いがなければ私はヨウと・・・ヨウ・アサクラと出会い引かれあうことはなかつたと思うから。

まあ、当然の反応だよね。それでも切り抜けるしかないよね。私は彼にさらに密着す

るよう抱きつきナンパ男に怪しまれないよう

(お願い私に合わせて／＼／)

彼の耳元で囁くがどうだろうか?

「・・・ああ、悪い待たせたな」

おお、神は私を見捨てなかつた。でも、声が少し裏返つてゐ

「・・ほんとうよ・・さあ、行きましよう!」

と思つた矢先に

「あんたら本当に恋人?彼声が裏返つてゐが」

ばれてるどうしよう。そんな焦りであたふたしてゐる私に彼は・・・

!/?/\/\/

不意打ちかのような・・キスをしてきた／＼・・私のファーストキスがこんな形

で迎えるとは。しかもフレンチではなくディープ・キスだし//

「・・んっ//／＼

数十秒位そうしていただろうか、いつの間にかナンパ男はいなくなつておりそれに気づいた私は彼の胸をたたき、彼もそれに気づいたのかゆっくりと離れていく。その時に彼が私を見下ろし私が彼を見上げる感じに視線が交わる。不覚にも彼のダークブラウンの瞳が綺麗だと思つたのは気の迷いだと思いたい。何か言わないと思つても言葉が出てこない。彼は役目が終了したのだと理解したのか先程の事をまるで無かつたかのように何も言わずに人混みの中に去つていくのだつた。私はルナマリアが見つけてくれるまでの間ずっと彼が去つていた方を見続けていた。その後は終始上の空だつたようでルナマリアに

「何時もの元気はどうしたんですか？」

と心配される位だつた。家に帰る頃には落ち着いてきたのか、あの出来事を日常のちよつとした体験だつたと思うことにしたのだ。でもそれは翌日に待ち受ける再会によつて私の日常は大きく変わつていくのだつた